



大原中学校だより

【大原中学校の教育目標】
「目的意識をもって自ら学び、心豊かに逞しく生きる生徒の育成」



平成31年3月9日
第14号
校長 柴田美由紀



苦難を乗り越えて、着実に歩み続けよう。

卒業 おめでとう



108名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。9年間の義務教育が終了しました。これから先は、義務ではありません。皆さんは自分で選んだ道を、自分の責任で歩いていかなければなりません。義務教育の終了とは、人生の新たな旅立ちでもあります。皆さんが今日こうして卒業の日を迎えられたのは、決して皆さん一人だけの力ではありません。天の恵み、国の恩、地の情け、人の慈しみ、なかでも、親・家族の慈愛への感謝を忘れてはなりません。皆さんをいつも大きな心で見守ってくださっていた地域の方々のご存在も忘れてはなりません。そして、学級担任の先生をはじめ多くの先生方が皆さんの成長を信じて、時には厳しく、時には優しく指導してくれたこともしっかりと胸に刻むことが大切です。人は「ありがとう」の数だけ賢くなり、「ごめんなさい」の数だけ優しくなり、「さようなら」の数だけ“愛”を知ることができます。

そこで、皆さんの晴れの門出に当たり、思い出とお願いの言葉を述べたいと思います。沖縄の自然の美しさや戦争の悲しさ・平和の尊さを実感した修学旅行。新生徒会・実行員会の初仕事で、学年の団結の一步にすることができました。そして、3年生となり、生徒会スローガン「All members～みんなで作るみんなの居場所～」のもと、数々の足跡を残してくれました。

風薫る五月、自分の目標をもち、競技ブロックごとに二ヶ月の練習を積んで迎えた陸上大会。懸命に応援する皆さんとそれに応えようとする選手のみなさんの頑張りによって、全員が「大原中学校の一体感の高まり」を感じることができました。

「All members～みんなで作る努力の結晶～」を合言葉に、団結と連帯を競い合った体育大会。さわやかな秋晴れのもと、全校生徒が一丸となって、渾身の演技を披露する姿は青春そのものであり、惜しめない拍手と歓声が渦巻きました。また、今年はパラ炭に集団行動という新たな創作が加えられたことも大変価値あることでした。体育大会を通じて流した汗と涙は皆の財産となり、仲間とのきらめく感動を共有した瞬間でした。

スローガン「All members～自分を表現し、響かせ合うみんなの心～」を目指して臨んだ合唱コンクール。どの学級もさすが3年生と、それぞれの音色が織りなす響きは聴衆の心を存分にうならせました。まさに溢れる想いが一つになり、心をつなげて歌うところに、友達との心のつながり、学級のまとまりが生まれることを実感できた文化発

表会でした。

これらの一つ一つに十分な生命(いのち)の燃焼がありました。すべては、卒業生の皆さんのリーダーシップなくしては得られない成果であり、必ずやこれらの姿は下級生への無言の教訓となり、しっかりと受け継がれるものと確信します。

さて、今新しい世界へと船出する皆さんに、はなむけの言葉を贈ります。それは、『苦難を乗り越えて、着実に歩み続ける人』になって欲しいという事です。人生には、沢山の喜びや楽しみ、生きがいがあると同時に、一方では、苦しみや悲しみ、困難に遭遇する事があります。ある意味、これからの人生、大小の様々な危機に出会うことは必然とも言えましょう。人間は、一生苦労しないで過ごす事ができれば、それが一番よいのではないかと考えている人がいるかも知れません。しかし、苦労をいつも親や周りの人に肩代わりしてもらって育ってきた人や、苦労から逃げてばかりいた人には、人との協力や思いやりの心、根気や不屈の精神が育っていません。人間は、辛い思いをして、苦しみや悩みに打ち勝った経験を持っている事が大切な事です。何かを成し遂げようとする時に、必ず、過去の苦しみを克服した経験が役に立つものです。人間は、自分で自分に厳しい課題を課し、それを解決するために、苦労や努力を惜しまず、『一步一步、困難に立ち向かっていこうとする』生き方こそ大切なのだと心得るべきです。

作家、山本周五郎も「ながい坂」という小説の中で、「何事にも人に抜きんでようすることはいい。けれどもな、人の一生は長いものだ。一足跳びに山の頂点へあがるのも、一歩、一歩としっかりと登っていくのも、結局は同じことになるんだ。一足跳びにあがるより、一歩ずつ登るほうが途中の草木(くさき)や泉や、いろいろな風物を見ることができると、それよりも、一歩、一歩を(慥)かめてきた、という自信をつかむことのほうが強い力になるものだ」と述べています。

それでも、希望の灯が消えかき、意気消沈するようなことが訪れたなら、皆さんは大原中で仲間と共に学び、経験し、心中に芽生えた真実の数々を思い出してください。素朴、純粋、寛容、温厚、親切、友情、忍耐、そうして最後に、本校の校訓「誠実」を思い出してください。皆さんの才能や意志は若き日に手にした皆さんの人を思いやる真実によって支えられたとき、ますますその輝きを増すに違いないと信じます。若者の本領は、未来への果敢な挑戦にあります。皆さんも挑戦する勇気をもって、困難を避けて通るのではなく、誠実に一步一步を踏みしめるような人生を送ってください。目的地へ早くつくことのみを求める足の早い旅人ではなく、大いなる夢を持ち、大地をしっかりと踏みしめ、肝心なものを見落とすことなく、自分なりのペースでその夢の実現に向け、はばたいてほしいと祈ります。

『訣別』
すべては訣別の詩だ
人はさよならと言うとき
一番美しい姿になる
目に光が生まれ
胸に愛が溢れてくる
ああ訣別を持つがゆえに
人生は美しい
坂村真氏

逆境はつねにいつても
自分の敵ではない。
ときには恩師となつて
人生に尊いものを教えて
くれることがある。
心の親となつて自分の
本質を守り育ててくれる。
不幸、病氣、逆境は
大成する人格を育てる
落ち葉である。
常岡一郎

それでは卒業生のみなさん、みずみずしい感性をもち、希望にあふれたみなさんの前途に幸多かれとお祈りします。卒業おめでとう！